

まちづくり・潮来の自然と歴史を知る

# 潮来市の誇れる文化

第129回

## 要石神社について

この神社は、現在地区の十軒ほどの人々によって守護されているが、以前は、十四、五軒在り、神社の周囲にも数軒の人家が存在していた。又、神社の境内には集会所があり、神社の祭事や地区の集まりごと等に使用されていて、台上戸東地区の大切な場所であった。

要石神社という名称も珍しいが、地元では鹿島神宮の分社だと言われている。

最近、祠は新築されたが、その時、要石は、氏子達に確認されており間違いない地震を鎮める目的で祀られたものであり、鹿島の要石を模したものである。しかし、創建についての記録は無い。境内には、雨乞いで有名な神奈川県の阿夫利神社名を刻んだ石碑が数基あり、明治時代の年号が記されているが、要石を祀ったのはそれより少し前で、宝永年間の巨大地震（犠牲者約3万人）のあとの安政の大地震（1885年、江戸中心に倒壊家屋約1万5千軒、犠牲者約1万人、この時、水戸学で有名な藤田東湖が小石川の藩邸で圧死した。）は、特に被害が大

きく、当時の近隣地域に住む人々に与えた影響は極めて大きかった様である。神社の創建もこの頃であろうと思われる。

戦後しばらくの間は、地元の神職により毎年恒例の祭事が執り行われていたようであるが、現在は、地区代表の国神社の総代の方中心に暮れには神社の境内の清掃をしたり、鳥居や祠に注連縄を飾ったりして年神様を祭り、正月には、氏子達が揃って、五穀豊穡や氏子の幸福、地域の安心、安全（地震など災害が起らないように）、又、災害に合わないように）祈願して、正月行事を行っている。

潮来市文化財保護審議会委員

明間 信夫



# 潮来市の誇れる自然

第38回

## 水郷の魚たちーカライワシを70年ぶりに採集！

お正月のおせち料理のひとつに、いわしの田作りがあります。スーパーなどでよく売られている田作りは、カタクチイワシの幼魚を乾煎りして、醤油ベースの甘辛いタレをからめたもの。お酒がよくすすむ味です。

最近、このイワシとは全く別の仲間「カライワシ」(写真)が、北浦の湖岸で採集されました。カライワシはカライワシ科に属する暖海沿岸性の表層遊泳魚で、ウナギの仲間と同じように、卵から孵化してしばらくすると透明な葉っぱ状の幼生期を経ることが知られています。日本では黒潮の影響が及ぶ海域に分布し、茨城県は太平洋側の分布の北限です。成長した幼魚は、淡水域にも遡上することがあります。

これまで北浦では1948年に旧鹿島郡大洋村(現在の銚田市)で採集記録があるのみでした。この当時、北浦の下流側にはまだ常陸川水門が設置されておらず、海とのつながりが維持されていました。しかし1970年代に水門が完全閉鎖されたからは、水門に併設された魚道しか通り道はありません。つまり、今回の採集個体は北浦での70年ぶりの記録で、かつ、その魚道を通ってきた可能性があるので、最近、この魚道は改良が進められて

いると聞いています。今回の北浦での調査では、カライワシだけでなく、水門閉鎖後にほとんど採集されなくなつたとされている海水魚のスズキや汽水魚のマハゼが頻りに採集されました。もしかすると、魚道や水門操作の状況に何らかの変化があったのかもしれない。このような傾向が今後とも継続して確認されるかどうか、もう少し時間をかけて見ていきたいと考えているところです。

茨城大学広域水圏環境科学

教育研究センター

大森 健策・内田 大貴

山本 天誠・加納 光樹



北浦の湖岸で採集されたカライワシ  
体長約8cm